

に1年生からキャリア教育を実施する。キャリア教育というのは、単なる就職対策だけでなく、人生の方向付けを考え、卒業してもなお大学が面倒を見る、という体制です。

夢を語る…学院はどうあるべきか

【川原会長】

大学では、学生中心という構想が明らかになりましたが、追手門学院として、どのような学院であるべきか、などの夢を語っていただきたいと思います。

【大木理事長】

夢も、追手門学院の現実を見つめながら語りたい、と思います。

追手門学院は、小学校がルーツであり、順次、各学校をゆるやかに統合して総合学園となりました。幼小中高は、割にまとまりが良いのですが、大学は、大学の良さを出不さいといけないと思います。

追手門ブランドをバックに40数年の歴史を刻んできた大学として、そろそろ偏差値だけでない社会有為の人材を輩出できる体制が必要です。

リベラルアーツという表現のもとで、ワンランク上の教養人としての卒業生を社会に供給する。こういう機能を果たし、これを10年、20年続けていけば、かなりの評価を得られると思います。

【平野会長】

これからは、学生中心の大学を目指さないといけない。特に現役の高校生に、学歴中心でなく、「追手門に行きたい」「追手門に行けば、何か得られる」という期待を持たせられるような学院でありたい。今までは、「どこの大学に行っても一緒」、という感じが多いのですが、追手門に来て良かったなと思える大学になることが必要です。もう一つは、大学と卒業生との連携が必要です。

就職に関しても、大学だけでも4万人の卒業生がいるわけですが、これらの人的資産をどう活用するかが、問題です。大学校友会に限らず、山桜会も3万人の卒業生を抱えています。サテライトオフィスを含めて、卒業生の動向把握が大事です。その意味で、従来の行動とは違った動きが必要です。

卒業生は学院の財産

【大木理事長】

卒業生は、まさに学院の財産です。

学院にとって、卒業生がどんな活躍をしているかを把握するのは、大事なことです。今は、大学卒の肩書きよりも、その人は何ができるか、が大事です。それなりの力を持った卒業生の方がいい。その意味では、追手門学院の方が、これからは楽しみだと思えます。

先日会った、船井総研の最年少の執行役員が追手門の卒業生でした。彼は、ゼミの先生の名前も知らない。ところが、志を立てて、本を15冊も出版して、500社と取引している。校友会に望むことは、卒業生の把握です。学院にとってもありがたいことです。これによって卒業生との距離が一挙に縮まります。

OTEMON GAKUIN
120th
Anniversary



【川原会長】

山桜会としても、追手門学院大学が、他大学との差別化・区別化という意味で、特性をもっと伸ばしてもらいたいと思います。偏差値だけでなく、追手門学院が、特色ある大学として、社会で幅広い活躍ができる卒業生を送り出してもらいたい。長い歴史を背景にした学院として、多くの卒業生の存在を生かし、個性的な学院の形成を望んでいます。

私学においては、卒業生が財産です。卒業生の活躍があつてこそ、学院の評価向上につながります。

同窓会のありかた

【鈴木学院長】

追手門学院は総合学院です。小学校から、中高、そして大学ができた。ただ卒業生といっても、小学校だけの人もいれば、中高だけ、大学だけなど様々です。そのなかで、どのように卒業生を同窓会として組織化するか、という非常に難しい問題があります。

さらに追手門学院の場合、山桜会と大学校友会という二つの同窓会組織があります。この二つがどのように力になっていただけか、が課題です。

これだけの歴史のある学院の同窓会としては、もっと支部があっても良いのではないかと思います。支部の活動を重ねることによって、全国レベルの活動が活発になるのではないのでしょうか。

【川原会長】

学院が卒業生を把握する意味でも、同窓会自体を活性化する必要があります。

卒業生の役割、同窓会のあり方が問われています。

大学校友会にしても、山桜会にしても、同窓会自体が、卒業生の動向を把握し切れていない、という面があります。

山桜会は、「開かれた山桜会」としての観点から、活動しています。幅広く一般会員をどれだけ同窓会活動に取り込むか、に力を注いでいます。